

# I Tサービス・ソフトウェア

## 1. 評価対象企業（12社）

日鉄ソリューションズ、TIS、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、  
オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、  
ネットワンシステムズ、BIPROGY、NTT データグループ(注)、SCSK

(証券コード協議会銘柄コード順)

(注) エヌ・ティ・ティ・データが商号を変更した（2023年7月）。

## 2. 評価方法

### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	15
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	3	29
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	6
計		10	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

### (2) 評価実施アナリストは23名（所属先22社）である。（氏名等は後掲）

## 3. 評価結果

### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうちフェア・ディスクロージャーと ESG 関連を中心に項目の数・内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、69.8点（昨年度 69.1点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 12.8点（昨年度 14.1点）となった。
- ② 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が69%（昨年度66%）、**説明会等**が75%（昨年度70%）、**フェア・ディスクロージャー**が79%（昨年度83%）、**ESG関連**が62%（昨年度61%）、**自主的な情報開示**が74%（昨年度72%）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全10項目のうち平均得点率が80%以上のものではなく（昨年度は1項目）、6項目が70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次の**フェア・ディスクロージャー**の項目であった。
  - ・ 「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか【終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点】（平均得点率79%〔昨年度77%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0%2社・40%台1社・100%9社）

④ 一方、**経営陣の IR 姿勢等**の中の次の 1 項目は、50%台となり、昨年度に比べ改善したものの、依然として最も低い水準となった。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 55% [昨年度 47%]) (得点率：20%台 2 社・30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 1 社)

⑤ **ESG 関連**の 3 項目は、次のとおりとなり、いずれも 60%台であった。(a)については、上位評価企業と下位評価企業の差が広がった。なお、(c)については、本年度において内容を変更したが、平均得点率がやや下がった。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が、十分に説明されていますか」(平均得点率 62% [昨年度 59%]) (得点率：20%台 2 社・30%台 2 社・40%台 1 社・80%台 5 社・90%台 2 社)
- (b) 「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 63% [昨年度 59%]) (得点率：30%台 2 社・40%台 1 社・50%台 3 社・70%台 3 社・80%台 3 社)
- (c) 「非財務情報（人的資本などの ESG 情報）を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 61% [昨年度 63%]) (得点率：40%台 3 社・50%台 3 社・60%台 3 社・70%台 2 社・80%台 1 社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 [7 回連続 15 回目]、

総合評価点 87.1 点 [昨年度比 -4.8 点]

- ① 同社は、5 分野全てにおいて第 1 位となった。具体的には、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率（以下省略）87%）、**説明会等**（82%（同得点第 1 位））、**フェア・ディスクロージャー**（100%（同得点第 1 位））、**ESG 関連**（86%）、**自主的情報開示**（78%（同得点第 1 位））となった。なお、昨年度に比べ、**フェア・ディスクロージャー**を除く 4 分野において得点率が下がった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「**経営陣の IR 姿勢**」および「**IR 部門の機能**」（2 項目）の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが決算説明会以外でも必要に応じて投資家に説明する姿勢があることや、経営戦略だけでなく詳細な定量情報まで把握していることを評価する声が寄せられ、スモールミーティングにおける経営陣とのディスカッションは有益との声もあった。また、充実していたイベントとして、海外事業や DX コンサルティング事業などの事業説明会が挙げられた。なお、苦戦事業についての分析と戦略に関する説明の充実を期待する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が最も高い評価となった。「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」は昨年度に比べ得点率がやや下がり、第 3 位（昨年度第 1 位）となった。これらに関連して、業績説明を含め説明資料の内容が充実しているとの声や、四半期ごとの数値が明確に開示されているとの声が寄せられた。なお、コンサルティング事業の競争環境についての説明を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。これらに関連して、スクリプト付き決算説明会資料と説明会録画映像が有益であったとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「**ESG に関する情報の開示**」が最も高い評価となり、「**目標とする経営指標等**」も同得点第 1 位となった。「**資本政策、株主還元策の開示**」は第 3 位となった。これらに関連して、統合報告書、ESG

データブックの内容を評価する声があった。また、課題解決と事業成長との関係を説明しようとする姿勢を評価する声も寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第1位となった。なお、海外事業に関する開示の充実を望む声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第2位 T I S（総合評価点 83.0点〔昨年度比-0.1点〕、昨年度第2位）**

- ① 同社は、**説明会等**（82%）、**フェア・ディスクロージャー**（100%）、**自主的情報開示**（78%）が同得点第1位、**経営陣のIR姿勢等**（79%）、**ESG関連**（80%）が第2位となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること」（第2位）および「**経営陣のIR姿勢**」（第3位）が共に評価された。なお、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」は第4位であった。これらに関連して、経営陣による経営戦略説明が充実しているとの声が寄せられ、コンサルティング事業説明会を評価する声もあった。なお、経営陣との対話の機会を増やすことや、クレジットカード向け事業の説明会を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率が改善し、第2位となった。この結果、この分野において同得点第1位（昨年度第3位）となった。これらに関連して、業績説明や説明会資料の内容が充実しているとの声や、キャッシュアロケーションの開示を評価する声も寄せられた。なお、決算説明会等にグループ会社の経営陣も参加してほしいとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。これに関連して、スクリプト付き決算説明会資料と説明会録画映像が有益であったとの声があった。
- ⑤ **ESG関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となり、「目標とする経営指標等」も同得点第1位となった。また、「ESGに関する情報の開示」も第2位となった。これらに関連して、統合報告書の内容を評価する声も寄せられた一方、環境課題や社会課題の解決と事業成長の関係についての説明を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第1位となった。

## **第3位 S C S K（総合評価点 79.8点〔昨年度比+4.6点〕、昨年度第6位）**

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（100%）、**自主的情報開示**（78%）が同得点第1位、**説明会等**（82%）、**ESG関連**（74%）が第3位、**経営陣のIR姿勢等**が第4位（75%）となった。昨年度に比べ、**経営陣のIR姿勢等**および**説明会等**の得点率が大きく改善した。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができること」が同得点第3位となった。「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」（第5位）は、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。「**経営陣のIR姿勢**」は同得点第8位となった。これらに関連して、経営トップによる経営戦略の説明を評価する声も寄せられた。また、モビリティ事業説明会や新中期経営計画説明会が充実していたとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が最も高い評価となった。「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」も得点率が改善し、第3位（昨年度同得点第6位）となった。これらに関連して、説明会資料のほかに補足資料の内容も充

実しているとの声が寄せられた。なお、注力領域の売上高など重要 KPI を四半期ごとに開示してほしいとの声があった。

- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、昨年度に続き満点評価となった。これに関連して、説明会録画映像が有益だったとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する情報の開示」が第 4 位となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」は昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 4 位（昨年度第 6 位）となった。「目標とする経営指標等」は第 5 位であった。これらに関連して、統合報告書の内容を評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第 1 位となった。

以 上

# 2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス  評価項目3 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示  評価項目2 (配点20点)		3. フェア・ディスク ロージャー  評価項目1 (配点15点)		4. ESGに関連する 情報の開示  評価項目3 (配点29点)		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示  評価項目1 (配点6点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307 野村総合研究所	87.1	26.1	1	16.4	1	15.0	1	24.9	1	4.7	1	1
2	3626 TIS	83.0	23.7	2	16.4	1	15.0	1	23.2	2	4.7	1	2
3	9719 SCSK	79.8	22.4	4	16.3	3	15.0	1	21.4	3	4.7	1	6
4	4739 伊藤忠テクノソリューションズ	79.5	23.3	3	15.7	4	15.0	1	20.9	4	4.6	4	3
5	9613 NTTデータグループ	75.4	22.2	5	13.7	12	15.0	1	20.2	5	4.3	8	5
6	7518 ネットアシストシステムズ	74.8	20.4	6	15.4	5	15.0	1	19.8	6	4.2	10	4
7	8056 BIPROGY	71.5	18.4	9	14.7	6	15.0	1	18.9	7	4.5	5	7
8	2327 日鉄ソリューションズ	66.1	19.0	8	14.5	7	15.0	1	13.1	10	4.5	5	8
9	4704 トレンドマイクロ	65.1	17.8	11	13.8	11	15.0	1	14.2	9	4.3	8	9
10	4733 オービックビジネスコンサルティング	58.1	20.0	7	14.5	7	7.0	10	12.2	11	4.4	7	10
11	4768 大塚商会	50.7	18.1	10	14.0	9	0.0	11	14.8	8	3.8	12	11
12	4684 オービック	46.5	17.0	12	13.9	10	0.0	11	11.4	12	4.2	10	13
	評価対象企業評価平均点	69.81	20.71		14.94		11.83		17.92		4.41		

## 2023年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。	10
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。 [終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点]	15
4. ESGに関連する情報の開示（29点）	配点
(1)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）が、十分に説明されていますか。	7
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（人的資本などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか。	15
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	配点
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	6

## IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部会長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	堀 雄介	みずほ証券

## 評価実施アナリスト (23名)

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
岩渕 啓介	岡三証券	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大浦 裕太	第一生命保険	千葉 馨	JP モルガン証券
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	鶴尾 充伸	シティグループ証券
河内 亮	丸三証券	寺島 正	大和アセットマネジメント
菅 あずさ	水戸証券	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
菊池 悟	SMBC 日興証券	堀 雄介	みずほ証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	山田 陽子	三菱 UFJ 信託銀行
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント
山藤 秀明	QUICK		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。